

高金利成長通貨ファンド（毎月分配型） ＜愛称 インカムグロース＞

本書は前半が第114期～第119期の運用報告書（全体版）、後半が償還運用報告書（全体版）となっています。

運用報告書（全体版）

第114期（決算日 2020年2月20日） 第115期（決算日 2020年3月23日）
第116期（決算日 2020年4月20日） 第117期（決算日 2020年5月20日）
第118期（決算日 2020年6月22日） 第119期（決算日 2020年7月20日）

償還 運用報告書（全体版）

第120期（償還）（償還日 2020年7月21日）

受 益 者 の み な さ ま へ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。

「高金利成長通貨ファンド（毎月分配型）」は、2020年7月20日に第119期の決算を行ない、また、信託約款の規定に基づき、2020年7月21日に信託期間が終了し、償還いたしました。

ここに、設定以来の運用状況と償還内容をご報告いたしますとともに、受益者のみなさまのご愛顧に対しまして、重ねてお礼申しあげます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／内外／債券
信 託 期 間	2010年8月31日から2020年7月21日までです。
運 用 方 針	主として、国際経済・金融システム上、重要とみられる国や地域の通貨建ての高格付けソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組 入 制 限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

<641359>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

高金利成長通貨ファンド（毎月分配型） ＜愛称 インカムグロース＞

運用報告書（全体版）

第114期（決算日 2020年2月20日） 第116期（決算日 2020年4月20日） 第118期（決算日 2020年6月22日）
第115期（決算日 2020年3月23日） 第117期（決算日 2020年5月20日） 第119期（決算日 2020年7月20日）

受 益 者 の み な さ ま へ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「高金利成長通貨ファンド（毎月分配型）」は、2020年7月20日に第119期の決算を行ないましたので、第114期から第119期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／内外／債券
信 託 期 間	2010年8月31日から2020年7月21日までです。
運 用 方 針	主として、国際経済・金融システム上、重要とみられる国や地域の通貨建ての高格付けソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組 入 制 限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

お 知 ら せ

当ファンドは、2020年7月21日に信託期間が終了し、償還を迎える予定です。

<641359>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 (分配落)	準 価 額			債 券 組 入 比 率	投 資 証 組 入 比	信 託 率 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 金 期 騰 落 中 率				
	円			円	%		%	百万円
90期(2018年2月20日)	3,548			30	△ 3.8		97.2	2,327
91期(2018年3月20日)	3,437			30	△ 2.3		97.7	2,204
92期(2018年4月20日)	3,426			30	0.6		97.8	2,160
93期(2018年5月21日)	3,289			30	△ 3.1		98.0	2,042
94期(2018年6月20日)	3,227			30	△ 1.0		97.8	1,984
95期(2018年7月20日)	3,211			30	0.4		98.0	1,933
96期(2018年8月20日)	2,925			30	△ 8.0		97.8	1,741
97期(2018年9月20日)	2,858			30	△ 1.3		99.0	1,686
98期(2018年10月22日)	2,967			30	4.9		97.8	1,737
99期(2018年11月20日)	3,060			30	4.1		97.8	1,782
100期(2018年12月20日)	3,064			30	1.1		98.0	1,778
101期(2019年1月21日)	3,010			30	△ 0.8		97.8	1,733
102期(2019年2月20日)	3,048			30	2.3		97.8	1,738
103期(2019年3月20日)	3,037			30	0.6		97.8	1,714
104期(2019年4月22日)	2,968			30	△ 1.3		98.2	1,652
105期(2019年5月20日)	2,817			30	△ 4.1		97.7	1,554
106期(2019年6月20日)	2,860			30	2.6		97.5	1,587
107期(2019年7月22日)	2,914			30	2.9		97.6	1,569
108期(2019年8月20日)	2,778			30	△ 3.6		97.9	1,488
109期(2019年9月20日)	2,824			30	2.7		97.8	1,493
110期(2019年10月21日)	2,818			30	0.8		98.1	1,479
111期(2019年11月20日)	2,817			30	1.0		97.7	1,447
112期(2019年12月20日)	2,823			30	1.3		97.7	1,433
113期(2020年1月20日)	2,879			30	3.0		97.7	1,432
114期(2020年2月20日)	2,856			30	0.2		97.7	1,373
115期(2020年3月23日)	2,467			30	△12.6		97.8	1,178
116期(2020年4月20日)	2,338			30	△ 4.0		98.0	1,115
117期(2020年5月20日)	2,387			30	3.4		98.0	1,142
118期(2020年6月22日)	2,406			30	2.1		97.9	1,150
119期(2020年7月20日)	2,393			0	△ 0.5		—	1,112

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

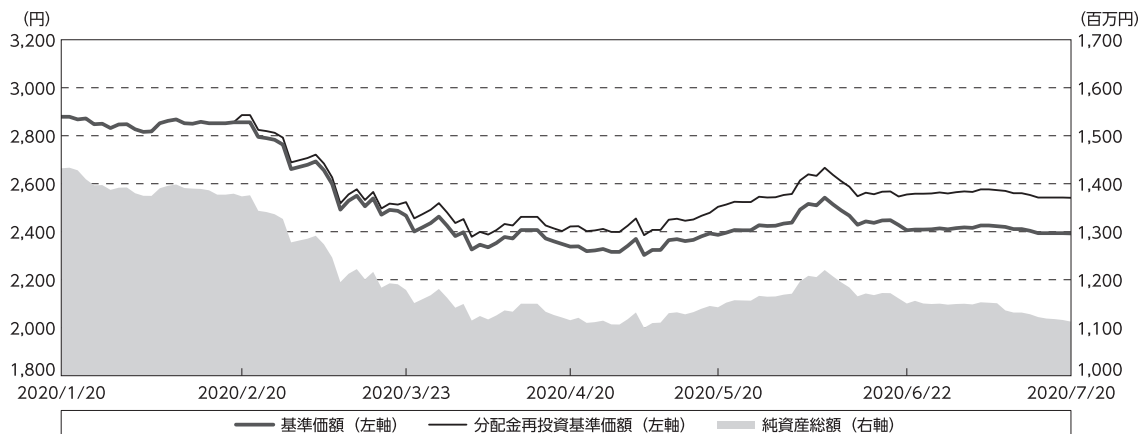
決 算 期	年 月 日	基 準	価 額	投 資 信 託 証 組 入 比 率
			騰 落 率	
第114期	(期 首) 2020年 1 月20日	円 2,879	% —	% 97.7
	1 月末	2,827	△ 1.8	98.1
	(期 末) 2020年 2 月20日	2,886	0.2	97.7
第115期	(期 首) 2020年 2 月20日	2,856	—	97.7
	2 月末	2,763	△ 3.3	97.8
	(期 末) 2020年 3 月23日	2,497	△12.6	97.8
第116期	(期 首) 2020年 3 月23日	2,467	—	97.8
	3 月末	2,382	△ 3.4	97.9
	(期 末) 2020年 4 月20日	2,368	△ 4.0	98.0
第117期	(期 首) 2020年 4 月20日	2,338	—	98.0
	4 月末	2,341	0.1	98.3
	(期 末) 2020年 5 月20日	2,417	3.4	98.0
第118期	(期 首) 2020年 5 月20日	2,387	—	98.0
	5 月末	2,425	1.6	98.1
	(期 末) 2020年 6 月22日	2,436	2.1	97.9
第119期	(期 首) 2020年 6 月22日	2,406	—	97.9
	6 月末	2,415	0.4	98.0
	(期 末) 2020年 7 月20日	2,393	△ 0.5	—

(注) 期末の基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

○運用経過

（2020年1月21日～2020年7月20日）

作成期間中の基準価額等の推移



第114期首：2,879円

第119期末：2,393円（既払分配金（税込み）：150円）

騰落率：△11.7%（分配金再投資ベース）

- （注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- （注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2020年1月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- （注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- （注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、内外の通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・保有債券からの金利収入を得たこと。
- ・メキシコ、インドなどの債券利回りが低下（債券価格は上昇）したこと。

<値下がり要因>

- ・トルコなどの債券利回りが上昇（債券価格は下落）したこと。
- ・投資対象通貨のメキシコペソ、トルコリラ、インドルピー、インドネシアルピアなどが対円で下落したこと。

投資環境

（債券市況）

新興国市場では、新型コロナウイルスの感染が驚異的なスピードで世界中に拡大し続けていることが、最も差し迫ったリスクとなりました。多くの新興国における新型コロナウイルスの感染拡大の程度や深刻度に関しては依然として不透明な要素が多くありますが、世界中で講じられている強力な政策対応によって経済的影響が軽減されているのは間違いありません。短期的には経済成長に甚大な影響が生じることは不可避と思われますが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響は比較的短期間に収束する可能性もあると考えられます。新型コロナウイルスの感染拡大の中心が先進国から新興国に移り、ブラジル、インドなどを含む多くの新興国で感染拡大が大幅に進行するなかで、今後数ヶ月にわたって、感染拡大に関する憶測が市場やリスクセンチメントを支配し続ける可能性が高いものの、世界経済へのダメージなどについてより多くのことが徐々に分かり始めています。最終的には、新型コロナウイルスの感染拡大に関する不確実性が縮小して、当ファンドが予測する新興国市場の長期的なマクロ経済トレンドが再び支配的になると考えています。世界的に経済成長が鈍化している状況下では、新興国市場の相対的に高い経済成長が、依然として投資家を引き付ける要因となる可能性が高いとみています。国際通貨基金（IMF）による世界経済見通しでは、2020年における先進国市場の経済成長率は8%縮小する一方で、新興国市場の経済成長率は3%の縮小にとどまると予想されています。また、2021年には世界経済が比較的急速に回復し、新興国市場が再び先進国市場を上回るペースで経済成長を遂げると見込まれています。為替レート下落によるコスト上昇を受けてインフレ圧力が高まるリスクがあるものの、需要の大幅な減少に対する懸念が、中央銀行の動きを左右する要因になると予想しています。先進国市場の中央銀行が実施する極めて緩和的な金融政策に下支えされ、新興国市場の中央銀行は緩和モードを継続する可能性が高く、新興国資産クラスにとってさらなる追い風になるとみています。

（国内短期金利市況）

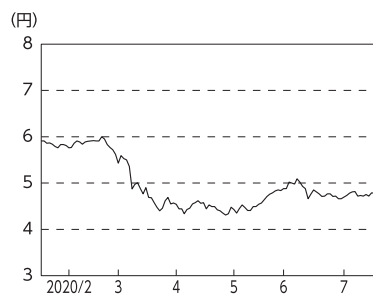
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの－0.02%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、－0.04%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの－0.13%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、－0.09%近辺で期間末を迎えました。

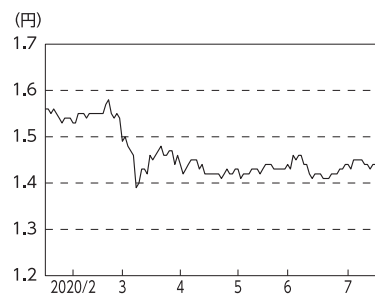
（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、右記の推移となりました。

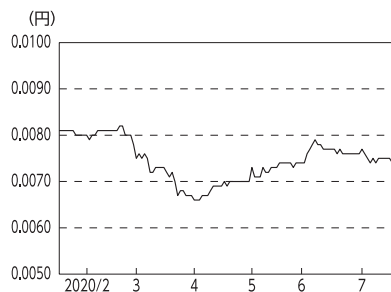
円／メキシコペソの推移



円／インドルピーの推移



円／インドネシアルピアの推移



円／トルコリラの推移



当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「インカム&グロス・カレンシーファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

当ファンドは2020年7月21日をもって償還するため、期間末にかけて組入ファンドの売却を行ないました。

（インカム&グロス・カレンシーファンド クラスA）

引き続き、当ファンドのポートフォリオ内で選好した国の1つはインドネシアです。格付け機関S & Pが2017年5月に同国のソブリン債格付けを「BBB+」から「BBB-」に引き上げたことを受けて、格付け機関大手3社すべてから初めて投資適格級が付与され、その後も外的ショックへの耐性が大幅に強まったとして、格付け機関3社すべてが格上げを実施しました。一方、インドネシアの中央銀行は、インフレ圧力は抑制された状態が続いていたものの、2018年に先制的な利上げサイクルに乗り出して高水準の実質利回りを維持し、高い信頼性を示しました。その後、インフレが鈍化傾向となるなか2019年には金融緩和が実施されましたが、非常に緩やかなものであったため、現地通貨建て債券は引き続き高水準のインカムを創出しました。

インドの組入比率は引き続き高めとしました。信用の伸びを阻害してきたシャドーバンキング（銀行を介さずに資金のやり取りを行なう取引）システムのストレスが主因となり、インドの経済成長はしばらく潜在成長率を下回りました。一方、需要の落ち込みに加えて原油価格の下落によって、経常赤字が縮小するとともにコアインフレが鈍化しましたが、総合インフレは多くの主要野菜の供給に混乱が生じたことから高止まりしました。食品価格の高騰は一時的なものであるとみられたことから、インドの中央銀行は経済成長を押し上げるために、複数回に及ぶ利下げに加えてその他の緩和措置を実施しました。短期的には経済の落ち込みが見込まれるものの、当ファンドでは、人口の伸び、労働力率の高まり、高等教育の普及が相まって労働力が高まるとみられ、これによる恩恵が得られることから中期的にはインドに対して強気な見方を維持しました。

また、メキシコについても組入比率を高めとしました。原油供給の規律が回復するなか、サウジアラビアが主導したロシアに対する価格戦争によって2020年3月に原油価格が大幅に下落した局面は現在脱しており、当ファンドではメキシコについて相対的に明るい見方を維持しました。加えて、経済が当面の間厳しい状況にあるなかでも、政府は原油収入の年間のヘッジを継続するなど堅実な財政政策を維持しています。さらに中央銀行は利下げに対して慎重な姿勢を維持しており、メキシコは他国に比べて利回り面で高い優位性があります。とはいえ、アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール大統領（通称AMLO）は新型コロナウイルスの感染拡大の抑制に必要と考えられる厳格なソーシャルディスタンス（社会的距離の確保）の実施には前向きではなく、新型コロナウイルスへの対処は不十分となっています。国内の健康に関する問題は差し迫っているものの、メキシコは米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）を通じて、米国の製造業の供給網を中国から分散化させようとするトランプ米国大統領の意向から引き続き恩恵を受けられる立場にあります。

トルコの投資比率も高位を維持しました。2018年8月にトルコリラが急落したことを受けて、トルコの中央銀行は9月によりやく金融政策を大幅に引き締めました。それ以降は内需が低迷し、原油価格の下落も寄

与して経常赤字が縮小したほか、インフレの大幅な低下につながりました。2019年後半を通じて、同中央銀行は政策金利を積極的に引き下げて対応してきましたが、インフレが再び加速し始めるなか、足元では政策金利を据え置きました。名目利回りは引き続き世界で最も高水準な国の1つとなっています。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
	2020年1月21日～ 2020年2月20日	2020年2月21日～ 2020年3月23日	2020年3月24日～ 2020年4月20日	2020年4月21日～ 2020年5月20日	2020年5月21日～ 2020年6月22日	2020年6月23日～ 2020年7月20日
当期分配金	30	30	30	30	30	—
（対基準価額比率）	1.040%	1.201%	1.267%	1.241%	1.232%	—%
当期の収益	30	30	30	30	30	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	980	985	991	998	1,005	1,005

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

当ファンドは、2020年7月21日をもって償還いたします。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年 1 月21日～2020年 7 月20日)

項 目	第114期～第119期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 12	% 0.459	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(4)	(0.142)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(8)	(0.301)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(0)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.050	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷 費 用)	(1)	(0.047)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	13	0.509	
作成期間の平均基準価額は、2,525円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

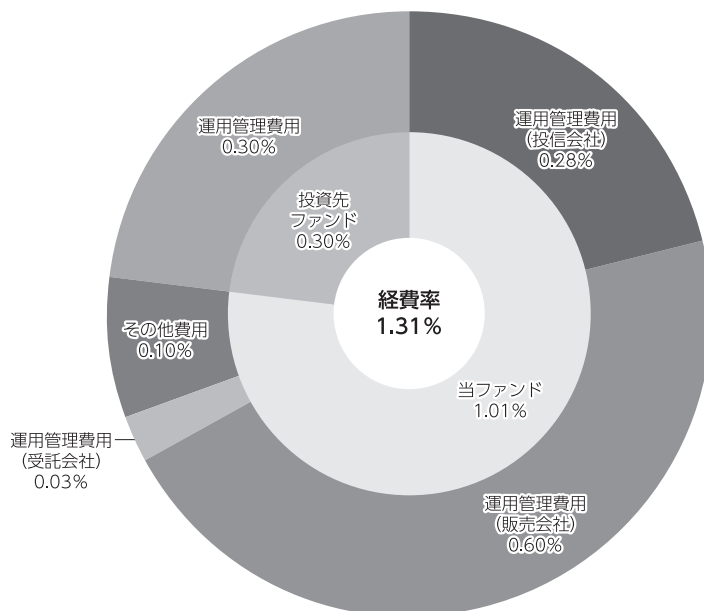
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

（参考情報）

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.31%です。



(単位: %)

経費率(①+②)	1.31
①当ファンドの費用の比率	1.01
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.30

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年1月21日～2020年7月20日)

投資信託証券

銘柄		第114期～第119期			
		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	インカム&グロス・カレンシーファンド クラスA	千口	千円	千口	千円
		178,223	37,871	5,521,752	1,191,396

(注) 金額は受け渡し代金。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		第114期～第119期			
		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	マネー・アカウント・マザーファンド	千口	千円	千口	千円
		29	30	1,455	1,459

○利害関係人との取引状況等

(2020年1月21日～2020年7月20日)

利害関係人との取引状況

<高金利成長通貨ファンド（毎月分配型）>

区分	第114期～第119期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
投資信託証券	百万円 37	百万円 37	% 100.0	百万円 1,191	百万円 1,191	% 100.0
金銭信託	3	3	100.0	3	3	100.0

<マネー・アカウント・マザーファンド>

区分	第114期～第119期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
金銭信託	百万円 103	百万円 103	% 100.0	百万円 103	百万円 103	% 100.0

平均保有割合 0.2%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当ファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三井住友信託銀行株式会社です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2020年1月21日～2020年7月20日）

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

（2020年1月21日～2020年7月20日）

該当事項はございません。

○組入資産の明細

（2020年7月20日現在）

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

2020年7月20日現在の組入れはございません。

銘	柄	第113期末	
		口	数
インカム&グロス・カレンシーファンド クラスA			千口 5,343,529
合	計		5,343,529

親投資信託残高

2020年7月20日現在の組入れはございません。

銘	柄	第113期末	
		口	数
マネー・アカウント・マザーファンド			千口
			1,425

○投資信託財産の構成

（2020年7月20日現在）

項 目	第119期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	1,121,050	100.0
投資信託財産総額	1,121,050	100.0

（注）比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末	第119期末
	2020年2月20日現在	2020年3月23日現在	2020年4月20日現在	2020年5月20日現在	2020年6月22日現在	2020年7月20日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	1,395,641,787	1,198,082,656	1,151,749,773	1,165,189,364	1,169,457,660	1,121,050,920
コール・ローン等	46,564,561	43,672,531	42,942,565	44,157,084	41,654,436	1,121,050,920
投資信託受益証券(評価額)	1,342,536,728	1,153,038,678	1,093,260,689	1,119,912,939	1,126,655,995	—
マネー・アカウント・マザーファンド(評価額)	1,371,584	1,371,447	1,117,184	1,119,341	1,147,229	—
未収入金	5,168,914	—	14,429,335	—	—	—
(B) 負債	21,994,536	19,487,963	36,128,188	22,598,714	19,032,875	8,354,811
未払金	—	—	18,231,542	6,286,218	—	—
未払収益分配金	14,429,007	14,334,904	14,313,914	14,362,099	14,345,840	—
未払解約金	5,647,833	3,195,991	1,761,221	—	2,506,301	6,262,790
未払信託報酬	1,093,264	1,026,714	808,540	849,332	977,912	805,652
未払利息	13	33	41	72	52	1,070
その他未払費用	824,419	930,321	1,012,930	1,100,993	1,202,770	1,285,299
(C) 純資産総額(A－B)	1,373,647,251	1,178,594,693	1,115,621,585	1,142,590,650	1,150,424,785	1,112,696,109
元本	4,809,669,295	4,778,301,334	4,771,304,695	4,787,366,505	4,781,946,836	4,649,205,636
次期繰越損益金	△3,436,022,044	△3,599,706,641	△3,655,683,110	△3,644,775,855	△3,631,522,051	△3,536,509,527
(D) 受益権総口数	4,809,669,295口	4,778,301,334口	4,771,304,695口	4,787,366,505口	4,781,946,836口	4,649,205,636口
1万口当たり基準価額(C/D)	2,856円	2,467円	2,338円	2,387円	2,406円	2,393円

(注) 当ファンドの第114期首元本額は4,974,783,009円、第114～119期中追加設定元本額は141,094,868円、第114～119期中一部解約元本額は466,672,241円です。

(注) 1口当たり純資産額は、第114期0.2856円、第115期0.2467円、第116期0.2338円、第117期0.2387円、第118期0.2406円、第119期0.2393円です。

(注) 2020年7月20日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は3,536,509,527円です。

○損益の状況

項 目	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
	2020年1月21日～ 2020年2月20日	2020年2月21日～ 2020年3月23日	2020年3月24日～ 2020年4月20日	2020年4月21日～ 2020年5月20日	2020年5月21日～ 2020年6月22日	2020年6月23日～ 2020年7月20日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	18,121,920	18,074,660	18,122,324	18,195,784	18,263,414	△ 6,106
受取配当金	18,122,182	18,075,374	18,122,676	18,196,515	18,264,561	—
受取利息	—	—	15	—	—	—
支払利息	△ 262	△ 714	△ 367	△ 731	△ 1,147	△ 6,106
(B) 有価証券売買損益	△ 13,441,401	△ 188,575,716	△ 64,137,753	20,303,789	6,263,677	△ 4,895,677
売買益	429,213	920,380	298,080	20,331,754	6,409,145	126,625
売買損	△ 13,870,614	△ 189,496,096	△ 64,435,833	△ 27,965	△ 145,468	△ 5,022,302
(C) 信託報酬等	△ 1,211,565	△ 1,137,812	△ 896,040	△ 941,237	△ 1,083,727	△ 892,827
(D) 当期繰越損益金 (A + B + C)	3,468,954	△ 171,638,868	△ 46,911,469	37,558,336	23,443,364	△ 5,794,610
(E) 前期繰越損益金	△2,072,765,094	△2,061,452,872	△2,234,276,373	△2,286,658,439	△2,248,949,339	△2,168,649,459
(F) 追加信託差損益金	△1,352,296,897	△1,352,279,997	△1,360,181,354	△1,381,313,653	△1,391,670,236	△1,362,065,458
(配当等相当額)	(317,589,198)	(316,166,279)	(316,386,377)	(318,587,037)	(319,076,089)	(310,870,946)
(売買損益相当額)	(△1,669,886,095)	(△1,668,446,276)	(△1,676,567,731)	(△1,699,900,690)	(△1,710,746,325)	(△1,672,936,404)
(G) 計 (D + E + F)	△3,421,593,037	△3,585,371,737	△3,641,369,196	△3,630,413,756	△3,617,176,211	△3,536,509,527
(H) 収益分配金	△ 14,429,007	△ 14,334,904	△ 14,313,914	△ 14,362,099	△ 14,345,840	0
次期繰越損益金 (G + H)	△3,436,022,044	△3,599,706,641	△3,655,683,110	△3,644,775,855	△3,631,522,051	△3,536,509,527
追加信託差損益金	△1,352,296,897	△1,352,279,997	△1,360,181,354	△1,381,313,653	△1,391,670,236	△1,362,065,458
(配当等相当額)	(317,589,198)	(316,166,279)	(316,386,377)	(318,587,037)	(319,076,089)	(310,870,946)
(売買損益相当額)	(△1,669,886,095)	(△1,668,446,276)	(△1,676,567,731)	(△1,699,900,690)	(△1,710,746,325)	(△1,672,936,404)
分配準備積立金	153,898,469	154,855,412	156,861,670	159,646,195	161,733,162	156,591,849
繰越損益金	△2,237,623,616	△2,402,282,056	△2,452,363,426	△2,423,108,397	△2,401,584,977	△2,331,035,918

(注) 損益の状況の中で (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程（2020年1月21日～2020年7月20日）は以下の通りです。

項 目	2020年1月21日～ 2020年2月20日	2020年2月21日～ 2020年3月23日	2020年3月24日～ 2020年4月20日	2020年4月21日～ 2020年5月20日	2020年5月21日～ 2020年6月22日	2020年6月23日～ 2020年7月20日
a. 配当等収益(経費控除後)	16,910,348円	16,936,821円	17,226,272円	17,750,926円	17,456,427円	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金繰戻後)	0円	0円	0円	0円	0円	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	317,589,198円	316,166,279円	316,386,377円	318,587,037円	319,076,089円	310,870,946円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	151,417,128円	152,253,495円	153,949,312円	156,257,368円	158,622,575円	156,591,849円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	485,916,674円	485,356,595円	487,561,961円	492,595,331円	495,155,091円	467,462,795円
f. 分配対象収益(1万円当たり)	1,010円	1,015円	1,021円	1,028円	1,035円	1,005円
g. 分配金	14,429,007円	14,334,904円	14,313,914円	14,362,099円	14,345,840円	0円
h. 分配金(1万円当たり)	30円	30円	30円	30円	30円	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○分配金のお知らせ

	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
1 万口当たり分配金（税込み）	30円	30円	30円	30円	30円	0円

○お知らせ

約款変更について

2020年 1 月21日から2020年 7 月20日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

高金利成長通貨ファンド（毎月分配型） ＜愛称 インカムグロース＞

償還 運用報告書（全体版）

第120期（償還）（償還日 2020年7月21日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。

「高金利成長通貨ファンド（毎月分配型）」は、信託約款の規定に基づき、2020年7月21日に信託期間が終了し、償還いたしました。

ここに、設定以来の運用状況と償還内容をご報告いたしますとともに、受益者のみなさまのご愛顧に対しまして、重ねてお礼申しあげます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／内外／債券
信 託 期 間	2010年8月31日から2020年7月21日までです。
運 用 方 針	主として、国際経済・金融システム上、重要とみられる国や地域の通貨建ての高格付けソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	「インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
組 入 制 限	投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託以外の有価証券への直接投資は行ないません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分 配 方 針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

<641359>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近25期の運用実績

決 算 期	基 (分配落)	準 価 額			債 入 比	券 率	投 資 信 託 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 騰 落 率				
	円 銭			円		%	%	百万円
96期(2018年8月20日)	2,925			30	△	8.0	97.8	1,741
97期(2018年9月20日)	2,858			30	△	1.3	99.0	1,686
98期(2018年10月22日)	2,967			30		4.9	97.8	1,737
99期(2018年11月20日)	3,060			30		4.1	97.8	1,782
100期(2018年12月20日)	3,064			30		1.1	98.0	1,778
101期(2019年1月21日)	3,010			30	△	0.8	97.8	1,733
102期(2019年2月20日)	3,048			30		2.3	97.8	1,738
103期(2019年3月20日)	3,037			30		0.6	97.8	1,714
104期(2019年4月22日)	2,968			30	△	1.3	98.2	1,652
105期(2019年5月20日)	2,817			30	△	4.1	97.7	1,554
106期(2019年6月20日)	2,860			30		2.6	97.5	1,587
107期(2019年7月22日)	2,914			30		2.9	97.6	1,569
108期(2019年8月20日)	2,778			30	△	3.6	97.9	1,488
109期(2019年9月20日)	2,824			30		2.7	97.8	1,493
110期(2019年10月21日)	2,818			30		0.8	98.1	1,479
111期(2019年11月20日)	2,817			30		1.0	97.7	1,447
112期(2019年12月20日)	2,823			30		1.3	97.7	1,433
113期(2020年1月20日)	2,879			30		3.0	97.7	1,432
114期(2020年2月20日)	2,856			30		0.2	97.7	1,373
115期(2020年3月23日)	2,467			30	△	12.6	97.8	1,178
116期(2020年4月20日)	2,338			30	△	4.0	98.0	1,115
117期(2020年5月20日)	2,387			30		3.4	98.0	1,142
118期(2020年6月22日)	2,406			30		2.1	97.9	1,150
119期(2020年7月20日)	2,393			0	△	0.5	—	1,112
(償還時)	(償還価額)							
120期(2020年7月21日)	2,393.24			—		0.0	—	1,111

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) ファンドの商品性格に適合する適切なベンチマークおよび参考指数はございません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

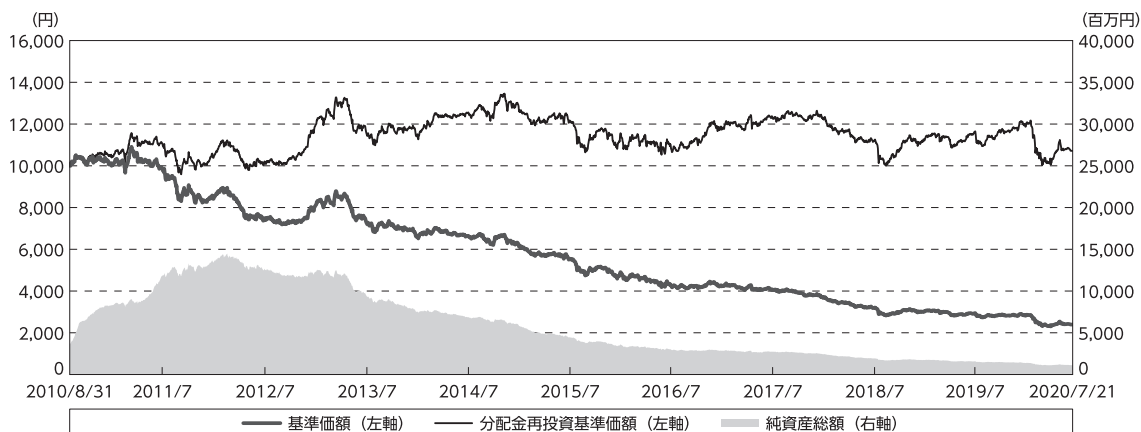
決 算 期	年 月 日	基 準	価 額	
			騰 落	率
第120期	(期 首) 2020年 7 月20日	円 銭 2,393		% －
	(償還時) 2020年 7 月21日	(償還価額) 2,393.24		0.0

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2010年8月31日～2020年7月21日)

設定以来の基準価額等の推移



設 定 日：10,000円
 第120期末（償還日）：2,393円24銭（既払分配金（税込み）：8,790円）
 騰 落 率：7.1%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

（注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、内外の通貨建て債券を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっておりました。信託期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

＜値上がり要因＞

- ・保有債券からの金利収入を得たこと。
- ・債券利回りが低下（債券価格は上昇）したこと。
- ・投資対象通貨のオーストラリアドルなどが対円で上昇したこと。

＜値下がり要因＞

- ・投資対象通貨のブラジルレアル、インドネシアルピア、トルコリラなどが対円で下落したこと。

投資環境

（債券市況）

世界金融危機後に、主要中央銀行は名目国内総生産（GDP）成長率を押し上げるため、より長期の金利を低水準に維持して金融環境を緩和するなど異例となる金融政策を数多く実施し、家計の信用の伸びを促進し、企業の投資を促しました。

設定当初、米国連邦準備制度理事会（FRB）は量的緩和第2弾を実施中で、この時期はアメリカドルが下落する一方、中国への依存度が高い国の通貨（オーストラリアドル、インドネシアルピア、ブラジルレアルを含む）を中心として利回りのより高い通貨が好調なりターンを示しました。また同時に、経済を下支えするために大規模な財政出動が行なわれていました。日銀は2010年に資産の買入れを開始しましたが、他の主要中央銀行が当面の間金利をゼロ近辺に維持するとのフォワードガイダンス（先行き指針）を維持したことから、円の上昇を食い止めるには至りませんでした。安倍政権の発足後、2013年序盤に日銀は積極的な動きを見せ、1月には物価目標を2%とし、できるだけ早期に実現するとしたほか、4月には積極的な量的・質的緩和プログラムを導入して、年間の資産買入れ額を60兆～70兆円増加しました。円は、この頃までにすでに大幅に下落していました。

FRBは、2013年5月に量的緩和プログラムにおける資産買入れペースを減速させることを示唆しました。多くの市場参加者は世界の潤沢な流動性に慣れてきており、このことは想定外であったことから、世界の債券利回りは急上昇し、多くの新興国通貨が下落しました。米国は概して緩和的な金融政策を維持していたものの、危機時の対応として潤沢に供給されてきた流動性が公言通り徐々に引き揚げられ、結果的に2015年12月に利上げが開始されると、新興国通貨はその後しばらく相対的に軟調に推移しました。この時期に中国の高い成長率も終わりを見せました。当時の成長の大半は債務の急激な伸びがけん引しており、債務総額の対GDP比率が2008年以降約100%上昇して250%まで高まっていたなか、中国当局は債務が過剰であるとみて信用の伸び率の積極的な低減をめざしました。しかし、これによって経済のモメンタムが予想以上に急速に損なわれ、他の多くの新興国に悪影響が及びました。こうした国にはロシアやブラジルが含まれ、両国とも景気後退に陥りました。2016年9月に、日銀はイールドカーブコントロールとオーバーシュート型コミットメントを導入しました。円は2015年以降上昇圧力に晒されていましたが、これを受けて急落しました。また、FRBのよりハト派（景気に対して弱気）的な姿勢が多くの新興国通貨の好調なパフォーマンスを支え、2017年の大半を通じて下支えとなりました。

2016年に実施された米国の大統領選挙でドナルド・トランプ氏が想定外に勝利すると、米国は2018年1月に施行した法人税率の引き下げを含め、より保護主義的な自国中心主義の政策を採用しました。FRBが大規模な財政緩和を懸念するなか、2018年を通じて着実なペースで利上げを行なうとともに満期を迎えた証券を再投資するペースを落としてバランスシートの削減を行ないました。この量的引き締めを受けて、アメリカドルは相対的に堅調に推移する一方、多くの新興国通貨には重しとなりました。

2019年に米国の経済成長の勢いが幾分落ち込むなか、FRBは量的引き締めプログラムを停止し、前半は比較的安定的に推移しました。第3四半期に米国の経済成長がさらに鈍化し始めると、FRBは先制的な利下げに踏み切り、年後半に合計で0.75%の利下げを実施しました。米中間の貿易を巡る緊張の緩和に加えて利下げが再び新興国通貨の下支えとなりました。2020年に入ると、新型コロナウイルスの感染拡大が市場に大きな影響を及ぼし、2月から3月にかけて新型コロナウイルスの感染は世界に広がりました。これによ

ってリスクセンチメントは3月に大きく冷え込み、新興国通貨は急落しましたが、F R Bによる大規模な流動性支援の提供を中心として前例のない規模の金融緩和や財政出動が世界で実施されると一部回復を見せました。

（国内短期金利市況）

設定時から2013年1月にかけては、日銀が金融緩和の強化を実施したことなどから、無担保コール翌日物金利は概ね0.1%を挟んだ水準で推移し、国庫短期証券（T B）3ヵ月物金利は概ね0.1%を上回る水準で推移しました。

2013年2月から2015年12月にかけては、2013年3月に黒田日銀総裁が就任後、4月に「量的・質的金融緩和」を導入したことなどから、無担保コール翌日物金利は、概ね0.1%を下回る水準で推移しました。その間、T B 3ヵ月物金利は、2014年9月にはマイナス金利まで低下し、その後も概ね0.0%を挟んだ水準で推移しました。

2016年1月以降は、日銀によるマイナス金利政策の導入を受けてコール市場でもマイナス圏での取引が続き、無担保コール翌日物金利は-0.03%近辺で償還時を迎えました。T B 3ヵ月物金利は日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.08%近辺で償還時を迎えました。

（為替市況）

信託期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

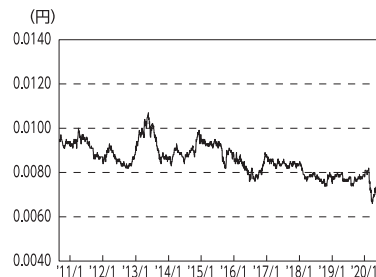
円／メキシコペソの推移



円／インドルピーの推移



円／インドネシアルピアの推移



円／トルコリラの推移



円／ブラジルレアルの推移



円／オーストラリアドルの推移



当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

当ファンドは2010年8月31日の設定以来、約9年11ヵ月にわたり運用してまいりました。このたび、約款の規定に基づき、信託終了日を2020年7月21日として償還いたしました。

これまでのみなさまのご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申しあげますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（インカム&グロース・カレンシーファンド クラスA）

当ファンドでは、集中的に投資する高金利通貨を厳選し、当該通貨建ての高格付け債券に投資を行ないました。2010年8月から2014年12月はオーストラリアドル、インドネシアルピア、ブラジルレアル建ての証券に投資しました。2015年1月から2019年7月はインドネシアルピア、インドルピー、ブラジルレアル、トルコリラ建ての証券に投資しました。2019年8月から2020年7月はインドネシアルピア、インドルピー、トルコリラ、メキシコペソ建ての証券に投資しました。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

信託期間中における分配金は、運用実績や市況動向などを勘案して決定し、1万口当たりの累計は8,790円（税込み）となりました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたしました。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年 7 月21日～2020年 7 月21日)

項 目	第120期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 0	% 0.003	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(0)	(0.001)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(0)	(0.002)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(0)	(0.000)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.000	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	0	0.003	
作成期間の平均基準価額は、2,393円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

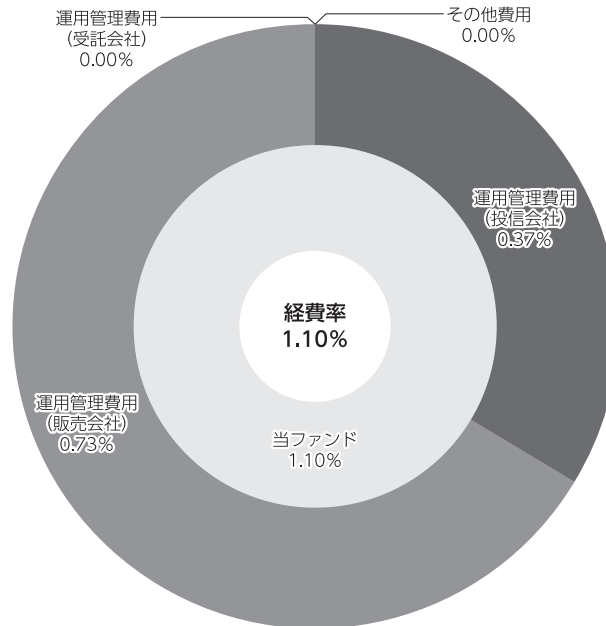
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.10%です。



(単位: %)

経費率 (①+②)	1.10
①当ファンドの費用の比率	1.10
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	-

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年7月21日～2020年7月21日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2020年7月21日～2020年7月21日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2020年7月21日～2020年7月21日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2020年7月21日～2020年7月21日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2020年7月21日現在)

2020年7月21日現在、有価証券等の組入れはございません。

○投資信託財産の構成

(2020年7月21日現在)

項 目	債 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	1,117,836	100.0
投資信託財産総額	1,117,836	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○資産、負債、元本及び償還価額の状況

項 目	償 還 時
	2020年7月21日現在
	円
(A) 資産	1,117,836,463
コール・ローン等	1,117,836,463
(B) 負債	6,518,486
未払解約金	6,489,303
未払信託報酬	28,091
未払利息	959
その他未払費用	133
(C) 純資産総額(A－B)	1,111,317,977
元本	4,643,568,573
償還差損金	△3,532,250,596
(D) 受益権総口数	4,643,568,573口
1万口当たり償還価額(C／D)	2,393円24銭

(注) 当ファンドの第120期首元本額は4,649,205,636円、第120期中追加設定元本額は0円、第120期中一部解約元本額は5,637,063円です。

(注) 1口当たり純資産額は、第120期0.239324円です。

(注) 2020年7月21日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は3,532,250,596円です。

○損益の状況

項 目	第120期
	2020年7月21日～ 2020年7月21日
	円
(A) 配当等収益	△ 959
支払利息	△ 959
(B) 有価証券売買損益	734
売買損	734
(C) 信託報酬等	△ 28,224
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	△ 28,449
(E) 前期繰越損益金	△2,171,807,948
(F) 追加信託差損益金	△1,360,414,199
(配当等相当額)	(310,494,071)
(売買損益相当額)	(△1,670,908,270)
償還差損金(D＋E＋F)	△3,532,250,596

(注) 損益の状況の中で(C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2010年8月31日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2020年7月21日		資産総額	1,117,836,463円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	6,518,486円
				純資産総額	1,111,317,977円
受益権口数	3,707,782,081口	4,643,568,573口	935,786,492口	受益権口数	4,643,568,573口
元本額	3,707,782,081円	4,643,568,573円	935,786,492円	1万口当たり償還金	2,393円24銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	4,824,428,193円	5,071,777,107円	10,513円	－円	－%
第2期	6,283,488,268	6,397,865,895	10,182	100	1.0
第3期	7,090,700,743	7,309,630,634	10,309	100	1.0
第4期	7,759,196,900	7,967,856,473	10,269	100	1.0
第5期	8,104,491,964	8,155,618,941	10,063	100	1.0
第6期	8,337,245,650	8,539,121,899	10,242	100	1.0
第7期	8,379,865,079	8,338,739,347	9,951	100	1.0
第8期	8,173,302,396	8,529,150,777	10,435	140	1.4
第9期	8,583,017,604	8,787,286,370	10,238	140	1.4
第10期	9,623,909,187	9,608,056,826	9,984	140	1.4
第11期	11,286,558,851	11,122,120,685	9,854	140	1.4
第12期	12,946,004,801	12,111,136,403	9,355	140	1.4
第13期	13,992,323,407	12,146,067,120	8,681	140	1.4
第14期	14,419,454,006	12,526,349,961	8,687	140	1.4
第15期	14,919,294,827	12,612,366,810	8,454	140	1.4
第16期	15,382,984,506	12,664,638,333	8,233	140	1.4
第17期	15,849,068,152	13,371,264,118	8,437	140	1.4
第18期	15,921,156,441	13,898,258,375	8,729	140	1.4
第19期	16,162,817,939	14,153,501,182	8,757	140	1.4
第20期	16,654,292,860	13,799,008,055	8,286	140	1.4
第21期	16,970,436,256	12,845,146,076	7,569	140	1.4
第22期	16,974,714,181	12,741,625,155	7,506	140	1.4
第23期	16,958,210,519	12,683,297,418	7,479	100	1.0
第24期	16,629,289,983	12,422,169,143	7,470	100	1.0
第25期	16,490,739,888	12,026,635,246	7,293	100	1.0
第26期	16,272,007,016	11,791,913,620	7,247	100	1.0
第27期	15,996,499,020	11,642,925,929	7,278	100	1.0
第28期	15,705,729,220	11,734,823,785	7,472	100	1.0
第29期	15,298,677,504	12,137,646,467	7,934	100	1.0
第30期	14,841,031,865	12,294,389,383	8,284	100	1.0

計 算 期	元 本 額	純資産総額	基準価額	1 万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
第31期	14,365,067,304円	11,975,404,013円	8,336円	100円	1.0%
第32期	14,093,512,805	12,018,177,938	8,527	100	1.0
第33期	13,932,439,210	11,870,973,067	8,520	100	1.0
第34期	13,311,419,824	9,908,887,821	7,444	100	1.0
第35期	13,002,450,266	9,760,343,974	7,507	100	1.0
第36期	12,646,999,646	8,795,037,070	6,954	100	1.0
第37期	12,393,432,657	9,031,911,128	7,288	100	1.0
第38期	12,253,420,203	8,835,495,935	7,211	100	1.0
第39期	11,940,059,464	8,404,926,981	7,039	100	1.0
第40期	11,563,249,281	7,977,141,048	6,899	100	1.0
第41期	11,393,835,897	7,802,611,135	6,848	100	1.0
第42期	11,221,940,430	7,529,182,396	6,709	100	1.0
第43期	11,053,539,333	7,439,925,093	6,731	100	1.0
第44期	10,827,344,183	7,413,971,351	6,847	100	1.0
第45期	10,728,581,362	7,268,594,124	6,775	100	1.0
第46期	10,667,902,466	7,105,450,096	6,661	100	1.0
第47期	10,384,856,989	6,855,113,100	6,601	100	1.0
第48期	10,318,235,353	6,753,596,395	6,545	100	1.0
第49期	10,180,342,148	6,688,076,239	6,570	100	1.0
第50期	10,140,867,721	6,337,680,951	6,250	100	1.0
第51期	9,888,268,487	6,526,776,013	6,601	100	1.0
第52期	9,651,403,733	6,152,098,754	6,374	100	1.0
第53期	9,678,883,349	6,020,053,531	6,220	60	0.6
第54期	9,245,243,385	5,556,686,112	6,010	60	0.6
第55期	8,914,238,575	5,114,656,516	5,738	60	0.6
第56期	8,577,239,455	4,878,319,223	5,688	60	0.6
第57期	8,432,528,102	4,838,166,567	5,738	60	0.6
第58期	8,240,324,104	4,682,081,855	5,682	60	0.6
第59期	8,051,262,880	4,561,239,310	5,665	60	0.6
第60期	7,993,214,139	4,224,839,152	5,286	60	0.6
第61期	7,874,293,398	3,759,604,131	4,775	60	0.6
第62期	7,784,879,752	3,871,056,627	4,973	60	0.6
第63期	7,649,100,728	3,916,114,451	5,120	60	0.6
第64期	7,437,462,207	3,664,326,412	4,927	60	0.6
第65期	7,349,388,538	3,432,362,304	4,670	60	0.6
第66期	7,181,114,884	3,246,397,989	4,521	60	0.6
第67期	7,131,823,498	3,346,597,333	4,692	60	0.6
第68期	7,147,588,884	3,286,719,664	4,598	60	0.6
第69期	7,093,120,897	3,153,161,019	4,445	60	0.6

計 算 期	元 本 額	純資産総額	基準価額	1 万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
第70期	7,082,740,481円	3,032,948,512円	4,282円	60円	0.6%
第71期	6,999,349,060	3,047,457,582	4,354	60	0.6
第72期	6,899,950,136	2,860,160,784	4,145	60	0.6
第73期	6,858,482,912	2,844,863,894	4,148	60	0.6
第74期	6,817,182,639	2,854,024,167	4,187	60	0.6
第75期	6,780,062,794	2,833,294,484	4,179	60	0.6
第76期	6,702,005,013	2,914,289,295	4,348	60	0.6
第77期	6,721,631,943	2,867,423,613	4,266	60	0.6
第78期	6,681,275,028	2,842,879,602	4,255	60	0.6
第79期	6,638,481,669	2,814,878,330	4,240	60	0.6
第80期	6,626,734,474	2,679,718,035	4,044	60	0.6
第81期	6,541,632,739	2,666,278,410	4,076	60	0.6
第82期	6,510,260,633	2,646,348,276	4,065	60	0.6
第83期	6,668,401,621	2,721,155,311	4,081	60	0.6
第84期	6,703,291,063	2,655,452,649	3,961	60	0.6
第85期	6,697,682,679	2,694,560,726	4,023	60	0.6
第86期	6,657,120,183	2,618,518,149	3,933	60	0.6
第87期	6,694,117,396	2,532,740,116	3,784	60	0.6
第88期	6,636,330,248	2,510,771,051	3,783	60	0.6
第89期	6,595,049,067	2,453,303,531	3,720	60	0.6
第90期	6,560,259,212	2,327,285,000	3,548	30	0.3
第91期	6,412,915,030	2,204,194,239	3,437	30	0.3
第92期	6,306,995,198	2,160,758,612	3,426	30	0.3
第93期	6,210,113,652	2,042,575,881	3,289	30	0.3
第94期	6,148,568,568	1,984,435,640	3,227	30	0.3
第95期	6,022,286,038	1,933,956,625	3,211	30	0.3
第96期	5,952,693,019	1,741,105,367	2,925	30	0.3
第97期	5,901,825,140	1,686,697,925	2,858	30	0.3
第98期	5,857,283,981	1,737,874,725	2,967	30	0.3
第99期	5,824,678,806	1,782,176,259	3,060	30	0.3
第100期	5,804,795,318	1,778,466,416	3,064	30	0.3
第101期	5,757,914,535	1,733,164,850	3,010	30	0.3
第102期	5,703,568,184	1,738,597,347	3,048	30	0.3
第103期	5,645,290,286	1,714,487,249	3,037	30	0.3
第104期	5,567,928,452	1,652,473,046	2,968	30	0.3
第105期	5,518,649,148	1,554,601,606	2,817	30	0.3
第106期	5,552,054,435	1,587,817,027	2,860	30	0.3
第107期	5,388,311,875	1,569,892,559	2,914	30	0.3
第108期	5,356,603,586	1,488,028,602	2,778	30	0.3

計 算 期	元 本 額	純資産総額	基準価額	1 万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
第109期	5,287,590,860円	1,493,036,581円	2,824円	30円	0.3%
第110期	5,248,454,017	1,479,025,470	2,818	30	0.3
第111期	5,137,835,363	1,447,115,543	2,817	30	0.3
第112期	5,079,025,560	1,433,782,134	2,823	30	0.3
第113期	4,974,783,009	1,432,145,233	2,879	30	0.3
第114期	4,809,669,295	1,373,647,251	2,856	30	0.3
第115期	4,778,301,334	1,178,594,693	2,467	30	0.3
第116期	4,771,304,695	1,115,621,585	2,338	30	0.3
第117期	4,787,366,505	1,142,590,650	2,387	30	0.3
第118期	4,781,946,836	1,150,424,785	2,406	30	0.3
第119期	4,649,205,636	1,112,696,109	2,393	0	0.0

○償還金のお知らせ

1 万口当たり償還金（税込み）	2,393円24銭
-----------------	-----------

○お知らせ

約款変更について

2020年7月21日から2020年7月21日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。